

# 琉球病院 Monthly



独立行政法人  
国立病院機構 琉球病院  
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

2015. 特別号

発行者 琉球病院事務部長  
吉永 可公

## 国立病院機構琉球病院新病棟完成記念式典を開催して

平成27年6月30日（第1期工事（平成26年5月～平成27年6月））新病棟完成に伴う、国立病院機構琉球病院新病棟完成記念式典を、平成27年7月9日（木）14時から、新病棟3階ホールで執り行いました。

当日は台風9号の接近のニュースに気をもみましたが、台風の接近が当初の予報より遅くなったため、予定どおりの記念式典が開催出来ました。ただ、残念なことに、記念講演をお願いしていた村上前院長（現国立病院機構榑原病院長）が、台風の影響により欠席となり、記念講演は行えませんでした。

院外からの参加は、沖縄県医師会会長をはじめ多数の出席（総勢82名）をいただき、盛会となりました。その模様を紹介します。

まず、記念式典に先立ち、院長を含めた来賓の方々7名によるテープカット式を執り行い新病棟の落成となりました。その後、記念式典の開会となりました。

記念式典では、まず、院長挨拶のあと、来賓の方々に祝辞を頂戴しました。

最初に、沖縄県医師会会長の宮城先生からの祝辞では、当院の成り立ちやその後の変遷をご紹介いただき、沖縄県において当院の精神医療への貢献を期待しているという趣旨のお言葉を頂きました。引き続き、金武町の仲間町長代理の仲間保健福祉課長、精神科病院協会の小渡会長、国立病院機構本部理事長代理の生田財務部長、国立病院機構九州グループの村中担当理事から祝辞を頂きました。

祝辞に続き祝電披露があり、その後に予定されていた村上先生による講演は台風の影響で行えませんでした。村上先生から一新病棟の竣工にあたって一というメッセージをいただき、これまでの琉球病院の歩みやこれから琉球病院が目指すところについて村上先生の熱い思いを伝えていただきました。

式典終了後は、出席された方々6グループに分かれての内覧会となりました。

今回新築となった病棟のコンセプトは、東Ⅰ病棟：急性期病棟、東Ⅱ病棟：クロザピン治療病棟、東Ⅲ病棟：認知症疾患治療病棟となっており、病棟を見学された方から、この部屋はどのように使うのですかと、部屋数が多くなり使い勝手は良くなりそうですね等のご質問・ご意見が出され、内覧会に参加頂いた皆様の新しい病棟への関心が高いことがうかがわれました。



最後に、今回の記念式典に際し、多くの病院・クリニックから立派なお花や観葉植物を頂き、会場がひととき華やかになったことをお礼申し上げます。

また、当日は、沖縄タイムス及び琉球新報から取材に見え、翌日（平成27年7月10日金曜日）の朝刊に記事が掲載されました。



平成27年7月10日(金)  
沖縄タイムス

## 新病棟完成の御報告と御礼

国立病院機構琉球病院 院長 福治 康秀

平成27年7月9日に、新病棟完成式典・内覧会を開催したところ、多くの方々に御出席いただき、本当にありがとうございました。

新病棟では、当院がこれまで取り組んできた多職種チーム医療を推進し、質の高い専門医療を提供するために、さらに努力いたしますので、今後も御指導、御支援をよろしくお願いいたします。

以下に新病棟コンセプトについて紹介させていただきます。

東Ⅰ病棟は精神科急性期病棟です。効果の高い専門的な治療を集中的に行うとともに、多職種チーム医療を徹底し、早期退院を目標とします。修正型電気けいれん療法（m-ECT）の実施も可能です。また、当院は平成27年4月より北部圏域の祝休日夜間の精神科救急システムを担当しており、東Ⅰ病棟がその中核を担います。

東Ⅱ病棟は、全国初のクロザピン治療の専門病棟です。クロザピン連携「沖縄モデル」の拠点病院として、県内精神科病院と連携を深め、沖縄県内のどこに住んでいてもクロザピン治療が提供できることを目標とします。

東Ⅲ病棟は、認知症の総合的治療を提供します。MRIや心理検査による質の高い診断、新しい認知症ケア「ユマニチュード」の導入、内科医による身体疾患治療、精神・身体両面の専門的リハビリテーション、地域向け研修会の充実に取り組み、地域住民の皆様のニーズに応えていきます。

新病棟完成後は、当院がこれまで取り組んできた専門医療・多職種チーム医療・アウトリーチ・地域連携をさらに推進するとともに、精神科救急・災害医療など地域の皆様に貢献できるよう取り組んでいきます。

新しい琉球病院を今後もよろしくお願いいたします。

## 認知症病棟見学会

認知症疾患治療病棟師長：横田 研治

平成27年6月、新病棟3階に認知症疾患治療病棟が完成し、7月14日に引っ越ししました。病棟の窓からは、眼下に金武湾を見下ろすことができ、患者さんだけでなく面会に来られたご家族も、きれいな海を眺めながらくつろぐ事ができます。

7月5日(日)、新病棟への移転に先立ち、地域の方々や施設の関係者を招いて、病棟見学会を開催しました。来棟者は47名（福祉施設13カ所から23名、地域住民12名、認知症専門病院2ヶ所から8名、包括支援センター2ヶ所の4名）でした。参加地域も北は大宜味村、南は北中城村と琉球病院の診療圏である沖縄の中部・北部地域から来ていただきました。

見学会は福治院長の挨拶のあと、ミニレクチャーを3題行いました。テーマは、医師から「認知症ってどんな病気」看護師から「認知症病棟での生活」作業療法士から「認知症病棟における作業療法」です。その後、病棟見学と並行して、作業療法の実施、心理療法や栄養に関すること、ユマニチュードについてパネル等を用いて説明を行いました。

そして、お昼には会場を2階に移し、軽食を摂りながら、参加者と病院職員が歓談し、和やかなひと時を過ごしました。この茶話会の中で「認知症は病気なのか。ただ、年を取っているだけではないのか」といった疾患への質問から、認知症のある家族への接し方、受診相談等色々な質問・相談がありました。

また、地域へ出向いての講演会の依頼や、いくつかの施設合同での事例検討会をしたいといった将来へ向けての要望も出されました。新しい病棟になり認知症の治療を充実させていくと共に、地域からの要望に誠実に応えていきたいと思っています。

